

子育て中のがん患者とその子どもへの 支援に向けた 多職種・他機関連携



赤川 祐子

Yuko Akagawa

講師 博士（保健学）

医学系研究科 保健学専攻 看護学講座 臨床看護学分野

研究キーワード

がん看護、子育て世代のがん、子ども、支援、多職種・他機関連携

研究概要

子育て中のがん患者とその子どもたちの悩みやニーズに治い、いつでも・どこでも対応していけるような支援体制の構築を目指しています。

子育て中のがん患者は、治療による生活変化や親役割の制限等により、QOLやストレス対処能力が低下する傾向にあります。一方子ども（未成年）は、心身共に発達の上にあることから、様々なストレスを抱え、親子関係の変容や学校生活への影響をきたす場合があります。このような状況の親子を支えるには、病院だけでなく、学校や地域等での多職種・他機関連携が重要です。

現在は、がん患者を親にもつ割合が最も多い小学生に焦点を当て、小学校でどのような支援が行われているかを調査し、学校-医療・看護の連携体制を構築する糸口を探っています。小学校教諭らは、児童から相談を受ける重要な存在である一方、がんの専門的知識や適切な支援方法に不安を抱いていました。今後は、教諭向けにがん関連の学習教材の作成や支援例の提示等を通して、学校-医療・看護間の連携体制を開発します。

Yuko Akagawa, et al. Challenge and hope for parents who have cancer. International Journal of Science and Research Archive3(1), 136-147, 2021

【活動紹介】

親子を社会全体で支えるには、市民へのがんリテラシー向上への取り組みも重要です。そのため、子どもや親世代を対象としたがん教育活動も実施しています。



- 市民（親子）を対象に、がんやがん予防について学ぶ機会を設けています。看護学生もスタッフとして関わっています。



- がん患者を親にもつ子どもへの支援プログラムをしています。人形に点滴をして親の病気や自身の気持ちへの対処法を学びます。

Yuko Akagawa, et al: CLIMB® Program Evaluation of Quality of life, the Stress Response, Self Esteem in Children Whose Parent Has Cancer: Pilot Study Global Journal of Health Science14 (9) 15-28, 2022

予想される応用例

本研究で開発するがん教育学習教材の効果が検証出来れば、より広く市民へのがんリテラシー向上に資する内容に応用できると考えています。

産業界へのアピールポイント

支援プログラムの実践や臨床現場、多職種・他機関とのつながりを持ち、実情に即した研究の推進を心掛けています。